

## 「文法」の練習方法について

皆さん、お久しぶりです。お元気ですか。

「文法」の試験と聞くと、なんだか非常に怖くて、面倒くさいもののように感じる人も少なくないと思いますが、「文法」がわからなければ、自分の言いたいことも、相手の言いたいことも、正確に伝え、そして理解することができません。「文法」とは言葉を使う上での大切なルールなのですから。

文法の問題を練習していく上で、まず必要なのが文法事項をとにかく覚えていくことです。そしてそのパターンを理解してください。例えば前に「一概に」とあれば後ろはたぶん「～とはいえない」、「おそらく」とあれば「～だろう」等の言葉が来るでしょう。ある言葉の後ろには、話し手の希望が来る、強い意思が来る、否定的な気持ちが来るなど、パターンを理解することができればまずOKです。そして、その時、同時に接続の形や文末の形なども忘れずに覚えておきましょう。

とにかく多くの文章に触れていくこと。同じ役目、同じ意味を持つ言葉でも、それを使う場所、対象によって使い分けなければならないことがあります。また一つの言葉でも違う用法、意味があるものもあります。同じ役目、意味を持つ言葉だからといって、いつでも置き換えて使うことができるとは限らないのです。置き換えたことによって、文章の意味が変わってしまうこと、不自然な表現になってしまうこともしばしばあります。そのためにもとにかく多くの文章に触れてください。ただ文型を覚えるだけではなく、意味のある文章として数多く覚えていく必要があるのです。また、自分の力で自分だけの文章を作り、できるだけ印象に残るようにしましょう。

そして、最終的には、数多くの文章に触れ、前文を読んで後の文を、また後の文を読んで前文を予想・想像することができるまで訓練しましょう。これは言葉を習得していく上で非常に大切な訓練です。皆さんもよくご存知だと思いますが、日本人は会話の中で文章を最後まではっきり言わず、途中でやめてしまうことがよくあります。そして、その後は聞き手に予想・想像させるのです。もし皆さんが何の知識もなく話しをしていて、相手の話が途中で終わってしまったら、本当にわけがわからなくなってしまいますね。この訓練は皆さんが今後、日本人と付き合いしていく上でも非常に役立つものです。とにかくできるだけ数多くの文章に触れ、内容を予想・想像できる範囲を広げていきましょう。

皆さん、頑張ってくださいね！